



# 岡崎市 中山間地域活性化計画

概要版

～オクオカ イノベーションプラン 2030～



令和4年3月

本市の中山間地域は、本市全体の面積の約6割を占め、水源のかん養や自然災害の防止など重要な役割を担う地域であり、この地域の持続的発展は、本市全体の発展にとって必要不可欠です。

しかしながら、全国的に人口減少や少子・高齢化が進み、若者を中心に都市部への流出に歯止めがかからない状況が中山間地域において特に顕著であり、複数の要因が複雑に絡み合っているとともにその課題は多岐にわたっています。

そこで、中山間地域に住む人々の生活を維持するとともに、農地や森林が有する多面的・公益的機能を発揮させ、経済活動に軸を置いて、中山間地域の有する資源や魅力を活かして民間からの投資誘導を図り、行政が支援しながら地域住民が主体となって地域づくりを進めるなど、公民連携による持続的な施策を戦略的に取り組み、持続可能な魅力ある地域を作り上げることを目的として、中山間地域活性化計画を策定することとしました。

# 将来展開

以下に示す基本理念の下、3つの基本方針に沿って、重点事項を中心に、本市の中山間地域の活性化に取り組めます。

## 基本理念（30年後を見据えた 今後の目指す方向性）

住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり

～オクオカ イノベーション～



### 基本方針

### 重点事項

#### I 「暮らし」の仕組みづくり

- ① 地域コミュニティ機能の維持や強化
- ② 多面的機能の発揮の促進
- ③ 生活インフラ等の確保
- ④ 鳥獣害対策の推進

#### II 「しごと」の仕組みづくり

- ⑤ 地域の特性を活かした複合経営等の推進
- ⑥ 地域経済循環の拡大
- ⑦ 新たなライフスタイルの推進

#### III 「交流」の仕組みづくり

- ⑧ 関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり
- ⑨ 魅力の向上・発信
- ⑩ 多面的機能に関する市民理解の促進

# 基本理念

本計画は、中山間地域を魅力ある持続可能な地域としていくために、30年後を見据え、今後の目指す方向性を示すものであり、基本理念を以下のように定めます。

## 住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり ～オクオカ イノベーション～

「オクオカ」とは岡崎市の中山間地域を指す愛称として、都心の喧騒を離れ、落ち着いた時間を過ごせる岡崎の奥座敷、という意味を込めています。

また、地域づくりに当たっては、全く新しいものを外部から持ち込むのではなく、活用可能な地域の資源を発掘し、磨き上げ、さらにこれまでにない他分野と組み合わせる取組み「地域資源×○○」を進めることで、魅力ある持続可能な地域を作り上げることを理念としており、これを「イノベーション」と表しています。

中山間地域は、森林、土壌、水、大気などの豊富な自然環境、それを利用した農業や林業などの経済活動、そして、人々の暮らしを支える地域社会という、SDGsの理念を構成する環境・経済・社会の三要素が密接に関連していることを踏まえ、農林水産物等の地消地産、地域資源を活用した地域経済循環の構築等により、SDGsの達成に向け、地域における人材の発掘や核となるステークホルダーの組織化等の環境整備を促進します。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 基本方針・重点事項

基本理念に定めた、「住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり」を実現していくために、3つの基本方針を定めます。

## 基本方針 I 「暮らし」の仕組みづくり

### ～地域活動、日常生活を維持していくための仕組みづくり～

高齢化や人口減少により、今後、さらに集落機能が低下し、集落そのものは当面維持されても、農地や森林の保全、買物・子育て等、集落での生活の維持に必要な機能が弱体化することが懸念されます。

今まで以上の活動の活性化には限界がある集落も想定されることから、集落の機能を補完するため、複数集落の範囲で地域資源の保全・活用や農林業振興と併せて、買物・子育て支援等、単独では採算性を有しない事業も含め、地域コミュニティの維持に資する取組みが重要と考えられます。

地域を維持していくため、あらゆる世代の人々が参画して地域の将来像についての話し合うことを促し、地域づくり、農林業振興、観光、文化、福祉、防犯等の面から集落機能を多機能化し、多様な主体と連携して、地域の人材の育成・活用や地域活性化を図ります。

#### 重点事項

- ① 地域コミュニティ機能の維持や強化
- ② 多面的機能の発揮の促進
- ③ 生活インフラ等の確保
- ④ 鳥獣害対策の推進

#### オクオカ イノベーション

地域住民×○○	遊休施設等×○○
空き家×○○	伝統文化×○○
農地・森林・河川×○○	自然環境×○○
有害鳥獣×○○	



## 重点事項 ① 地域コミュニティ機能の維持や強化

世代を超えた地域の住民による地域のビジョンづくり (10ページ参照)	地域住民×〇〇(話し合いなど)
遊休施設等を活用した小さな拠点の形成 (11ページ参照)	遊休施設等×〇〇(話し合い・都市部 住民・事業者など)
移住・定住の促進	地域住民×〇〇(都市部住民など) 空き家×〇〇(都市部住民・事業者など)
農地付き空き家の取得円滑化	空き家×〇〇(制度・都市部住民など) 農地×〇〇(制度・都市部住民など)
伝統文化の保護継承	伝統文化×〇〇(都市部住民など)

## 重点事項 ② 多面的機能の発揮の促進

農地、森林、河川の保全管理	農地、森林、河川×〇〇(都市部住民・ 事業者など)
---------------	------------------------------

## 重点事項 ③ 生活インフラ等の確保

生活インフラ等の確保	地域住民×〇〇(情報基盤・ICT・交 通・事業者など)
自然環境等を活かした教育の推進	自然環境×〇〇(教育・学校・制度・ 都市部住民・事業者など)
定住条件の整備	地域住民×〇〇(情報基盤・ICT・ 事業者など)

## 重点事項 ④ 鳥獣害対策の推進

有害鳥獣捕獲等体制の強化	有害鳥獣×〇〇(団体活動・地域活動など)
担い手の育成・確保	有害鳥獣×〇〇(団体活動・地域活動・ 都市部住民など)
ICT技術導入による捕獲作業の軽減化	有害鳥獣×〇〇(情報基盤・ICT など)
ジビエの有効活用	有害鳥獣肉×〇〇(新たな活用・団体 活動・事業者など)
有害鳥獣誘引ほ場	有害鳥獣×〇〇(耕作放棄地・山林など)
地域ぐるみの体制構築	有害鳥獣×〇〇(団体活動・地域活動・ 都市住民など)

## 基本方針 II 「しごと」の仕組みづくり

### ～地域資源を活かして所得・雇用機会を確保する仕組みづくり～

中山間地域は、平地に比べ自然的、経済的に条件不利地が多く、十分な所得を確保できない地域も少なくない状況です。一方で、新型コロナウイルスの影響により、これまで農業・農村との関わりが少なかった都市部の人材が、農業・農村の価値や魅力を再認識し、都市と農村間の往来や農村に定住するなど、「田園回帰」「農村回帰」による人の流れが広がり、都市部の人材が地域活性化に貢献する動きも出始めています。

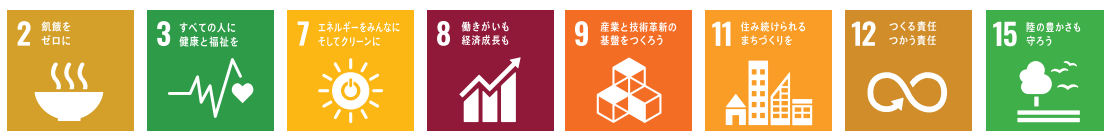
こうした状況を踏まえ、今後は、地域全体の所得向上のため、従来の農林業者が加工・販売なども行う6次産業化の取組みをこれまで以上に加速化するとともに、その考え方を拡張して中山間地域が有する地域資源を発掘し、その価値を磨き上げた上でこれまでにない他分野と様々な形で組み合わせることや、地域内外の幅広い関係者との新たな連携や関連産業の技術の活用等により、新たな事業・価値の創出や所得向上を図る取組みの推進を図ります。

#### 重点事項

- ⑤ 地域の特性を活かした複合経営等の推進
- ⑥ 地域経済循環の拡大
- ⑦ 新たなライフスタイルの推進

#### オクオカ イノベーション

農村・森林空間×○○      地場産業×○○  
 地域住民×○○          耕作放棄地×○○



## 重点事項 ⑤ 地域の特性を活かした複合経営等の推進

地域資源と他分野との組み合わせた新たな取り組み	農村・森林空間×〇〇(調査・多様な人材・事業者など) 地場産業×〇〇(調査・多様な人材・地域活動・SDGs・ESG投資など)
多様な分野で農村・森林空間の活用	農村・森林空間×〇〇(健康・観光・教育など)
農林業等の担い手確保	農村・森林空間×〇〇(福祉・ICT・都市部住民・仕事など) 地場産業×〇〇(多様な人材・ICT・都市部住民など)
新しい技術の活用	農村・森林空間×〇〇(ICT・仕事など) 地域住民×〇〇(ICT・仕事など)
地域商社の活用	農村・森林空間×〇〇(仕事・都市部住民など) 地場産業×〇〇(サービス産業・都市部住民など)

## 重点事項 ⑥ 地域経済循環の拡大

地元産品のブランド化、6次産業化、地消地産の推進	地場産業×〇〇(魅力・高付加価値化・仕事など)
多様な土地利用方策・仕組みの構築	耕作放棄地×〇〇(高収益作物・都市部住民など)
SDGs、カーボンニュートラルへの取り組み	農村・森林空間×〇〇(SDGs、カーボンニュートラルなど)
岡崎漆プロジェクトの推進	耕作放棄地×〇〇(漆・新産業・公民連携・SDGs、カーボンニュートラルなど)
地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入	再生可能エネルギーの活用 農村・森林空間×〇〇(太陽光・木・水など)

## 重点事項 ⑦ 新たなライフスタイルの推進

テレワーク、ワーケーションの推進	農村・森林空間×〇〇(事業者・都市部住民・ICTなど)
デュアルライフ(2地域居住)、半農半X、半林半Xの推進	農村・森林空間×〇〇(都市部住民・仕事など) 地場産業×〇〇(都市部住民など)

## 基本方針 Ⅲ 「交流」の仕組みづくり

### ～様々な人材により地域の多面的機能を保全する仕組みづくり～

持続可能な地域を創造するためには、都市部住民も含め、地域の支えとなる人材の裾野を拡大していくことが必要であり、そのためには、農林業や農泊などを通じて都市住民が中山間地域に関わることで交流人口の創出を図り、そこから「関係人口」の創出・拡大と関係の深化を図っていく必要があります。

関係人口には、農林水産物の購入や各種行事への参画等により地域を支えるケース、援農等で農業に携わるケース、地域づくりに関わるケースなど、様々な形があると考えられ、都市部にいながら関わる形から始まり、中山間地域の仕事への関わりや継続的な訪問を経て生活の拠点を移す形に至るまで、段階を追って、中山間地域への関わりを深めていくことで、新たな担い手へとスムーズに発展していくことが想定されます。

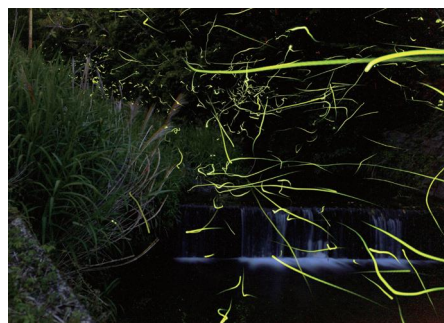
今後は、中山間地域と関わるきっかけを創出するため、地域の魅力を発信し、各種交流事業を始め、さらに継続的に地域に関わり、地域活動等に参画する人材の創出・育成を図ります。

#### 重点事項

- ⑧ 関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり
- ⑨ 魅力の向上・発信
- ⑩ 多面的機能に関する市民理解の促進

#### オクオカ イノベーション

農村・森林空間×○○ 地域住民×○○  
遊休施設等×○○





重点事項 ⑧ 関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり

きっかけづくり

農村・森林空間×〇〇(都市部住民・事業者など)

中間支援組織の形成

地域住民×〇〇(地域活動・団体活動・都市部住民・事業者など)

地域おこし協力隊等、地域内で活動する多様な人材の確保及び育成

地域住民×〇〇(都市部住民・地域活動など)

地域運営組織・地域づくり事業体 (RMO Region Management Organization) の形成

地域住民×〇〇(都市部住民・地域活動など)

重点事項 ⑨ 魅力の向上・発信

自然体験、アウトドア活動、レクリエーション、健康づくりの場としての魅力向上

農村・森林空間×〇〇(都市部住民など)  
遊休施設×〇〇(地域活動・都市部住民・事業者など)

日常生活における、地域ならではの魅力発見

農村・森林空間×〇〇(地域活動・都市部住民・事業者など)

地域の魅力発信

農村・森林空間×〇〇(地域活動・都市部住民・事業者など)

重点事項 ⑩ 多面的機能に関する市民理解の促進

地域の多面的・公益的機能の重要性に関する普及啓発

農村・森林空間×〇〇(都市部住民・地域活動・団体活動・教育など)



# 地区別計画

中山間地域は、各地区でそれぞれ特色があり、有している地域資源も抱えている課題も一様ではありません。

地区の抱える課題を解決するためには、住民一人ひとりが、地区の現状をよく理解し、解決方法や体制づくりについて、各地区でしっかり議論することが不可欠です。

こうした住民同士の議論から合意形成に至るには、相応の時間がかかりますが、大変重要なプロセスです。これをしっかりと丁寧に行うことで、実践活動への移行がしやすくなります。

## 地域住民の機運醸成・合意形成の推進

- ・ 地域づくりの開始に向けた住民議論を喚起するため、客観的な統計データや他地域の取組状況などのツールを提供し、ワークショップ等開催の支援を行います。

### ■ワークショップの風景



## 人材の育成・確保

- ・ 地域課題の解決に向け、「我がごと」「自分ごと」として積極的に行動する「キーパーソン」が必要であることから、地域における人材の育成や確保を図るための研修等を開催します。
- ・ 人口減少が進む地域内の人材だけでなく、地域おこし協力隊制度の活用等外部からの人材確保を推進します。

## 対象地区

- ・ 本計画が対象となる生平学区、秦梨学区、常磐南学区、常磐東学区、常磐学区、恵田学区、奥殿学区、豊富学区、夏山学区、宮崎学区、形埜学区、下山学区の12学区（ただし市街化区域は除く）を対象地域とします。
- ・ 各地区の現状等を考慮して、学区内の町別や複数の学区合同での地区別計画も可能とし、作成した地区別計画は、本計画の下位計画として位置付けます。
- ・ 地域管理構想図を策定した場合は、市の管理構想図の一部として編入し、農地については、人・農地プランの地図として取り扱います。
- ・ 作成した計画については、地域の状況を鑑みながら、適宜改定していくものとします。

# 小さな拠点の形成

「小さな拠点」とは、小学校区など、複数の集落が散在する地域（集落生活圏）において、商店や診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を確保し、周辺集落とネットワークで結ぶことで、暮らし続けられる環境を維持するとともに、都市部住民も含めた人々が集い、交流する機会が広がることで交流人口の創出・拡大から移住・定住に繋がり、集落地域の再生を目指す取り組みです。

各施設をそれぞれ拠点として活用を進めるとともに、施設ごとに繋がりを持たせることで、面的に地域活性化を図っていきます。

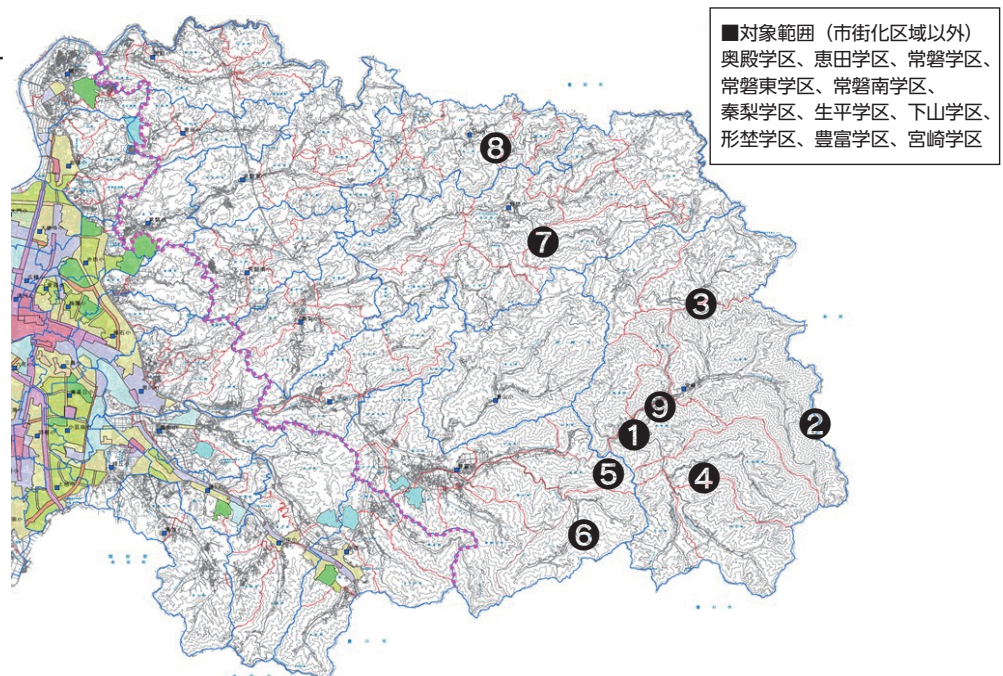
- 住民や地域のメリット：生活サービス水準の維持や住民同士の交流の活発化とともに、地域住民に仕事を提供する雇用創出効果や、所得向上によって地域の経済を活性化させる効果があります。
- 行政におけるメリット：人口減少や高齢化によって多様化する課題を解決するための行政サービスコストの増大や予算・職員が削減される厳しい経営環境において、地域との協働によって住民の活躍を力にさせていただくことで地域のニーズに応じた政策を展開しやすくなり、将来的に安定したサービスを持続的に提供することにつながります。

これらの取り組みを推進する上では、地域が必要とすることや取り組みたいことを住民の意見をまとめて計画にし、その実施方法や体制について検討を進めながら、既存の施設などを有効に活用していくことが重要になります。住民の意向に基づく機能を有する拠点施設として、地域資源や魅力を活かして民間からの投資誘導を図るなどの工夫もしながら、公民連携による持続的な施策として、戦略的かつ分野横断的に取り組み、持続可能な魅力ある地域を作り上げることを目的として、中山間地域に点在する遊休施設等を活用していきます。

今後、以下の9施設を候補として、本計画の下位計画の位置づけとする予定の各学区別の「地区別計画」を策定する際に行う話し合いに合わせて、具体的な活用・運営方法について住民が主体的に決めていくよう支援します。国等の補助金・交付金を活用しながら、小さな拠点の形成を推進します。

- 1 農村環境改善センター
- 2 くらがり溪谷
- 3 千万町倉庫
- 4 旧大雨河小学校
- 5 岡崎市わんパーク
- 6 岡崎市ホテル学校
- 7 日近の里
- 8 旧J A 下山支店
- 9 旧J A 宮崎支店

注) 旧J A 下山支店・宮崎支店については、地域に存在し、拠点となり得る遊休施設として、地域の意見も含めて検討したものであり、現在、市の所有施設ではありません。



■「小さな拠点」の例



岡崎市経済振興部中山間政策課

〒444-8601

岡崎市十王町二丁目9番地

電話 0564-23-6206